

# IV 早島町における栄養教諭を 中核とした食育推進事業の取組 成果と課題

## 【成果と課題】

○テーマ1 幼・小・中の連携による食に関する指導の実践と学校給食の充実に向けた取組  
食育推進委員会が設置されたことにより、今まで各校園で行われていた食に関する指導が、幼・小・中の連携を保ちながら積極的に行われるようになった。学校給食の物資選定、献立作成、衛生管理について、食育推進委員会と同専門部会での協議を受け、町の方針をもとに円滑に実施できるようになった。また、食育推進委員会には、PTA、栄養委員、愛育委員等、町内各種団体の代表者が委員として参画しており、先進校視察では学校と地域が連携して行う食育を知り、本町での取組の参考になった。

調理従事者を対象にした衛生講習会は、有識者による立ち入り調査や細菌検査等の結果を受けて実施した。そのため、課題が明確になり作業方法や工程等について具体的に検討することができた。また、調理方法や衛生管理に関する知識を深めるとともに、各種マニュアルをもとに施設設備について見直す機会となった。さらに、有識者による立ち入り調査と講習会を毎年実施する体制も整備することができた。

今後、食育推進委員会の活動が形骸化することのないよう協議内容を必要感のあるものにし、継続して実施できるよう努めていきたい。

○テーマ2 健やかな心と体、人間関係を育む食に関する指導の充実

食に関する指導の全体計画を見直し、年間指導計画を作成することにより、食に関する指導の目的が明らかになり、教育課程全体に正しく位置付け、系統的に行うことができるようになった。年間指導計画に食育の視点を書き加えておくことによって、各教科、道徳、特別活動の特質と食に関する指導の関係が明確になり、意図的な指導が行われるようになった。また、食に関する指導を実施するにあたり、指導の実際として示したとおり、養護教諭や栄養教諭が専門性を生かし指導に加わることによって、担任だけの指導に比べ児童の学習意欲や食と健康に対する関心が大変高まることがわかった。今後、可能な限り養護教諭や栄養教諭が積極的に関わり、食に関する指導の効果を高めていきたい。

○テーマ3 ICTを活用した家庭・地域への啓発及び家庭・地域と連携した食に関する指導の取組

食育だよりの定期的な発行に加え、随時、ホームページに食に関する記事を掲載することによって、保護者や地域の方の食に関する指導や学校給食に対する関心を高めることができた。また、家庭や地域に、食育推進委員会の様子やアンケート調査で明らかになった児童生徒の食生活や生活習慣の実態を知らせる食育ニュースを作成することで、さまざまな視点で食について考えたり見直したりするよう促すことが可能になった。

料理教室を開催することは、食事作りの興味関心を引き出し、家庭での実践につなげることに効果的である。再受講を望む参加者も多かったことから、開催内容の検討もしていきたい。

この他、学校での学習を日常生活で実践し、子どもの食の自立を促す教材となるレシピ集を栄養委員と協働で作成することができた。地域で開催される料理教室の参考資料としても活用されるよう関係機関に周知したい。

最後に、本町では、生涯学習課、福祉課等が各種団体に積極的に関わり、様々な活動が行われている。今後、町内各種団体、学校教育課、生涯学習課、福祉課、学校園が食育の目的を共有し、その効果を高めることができるよう働きかけを続けていきたい。

## 平成 25 年度 栄養教諭を中核とした食育推進事業に取り組んで

子どもたちの食生活は、ライフスタイルや価値観の多様化により、大きく変化してきています。その結果、野菜の摂取不足や栄養バランスの偏り、欠食による食習慣の乱れ、そして、生活習慣病の増加等、様々な課題が生じるようになってきています。

このような課題を解決するため、学校においては、子どもたちの発達段階に合わせて、健全な食生活を実践する知識と態度を育成し、心身の健康を増進するための望ましい食育を推進することが求められております。

これまで、早島町におきましては、児童生徒の望ましい食習慣の形成や食文化の向上を図るため、平成 18 年 3 月に「健康はつらつ早島 21」を策定し、学校現場においては栄養教諭を中心に給食時間や教科等と関連させながら、計画的に食に関する指導に取り組んでまいりました。

そして今年度、文部科学省の「栄養教諭を中核とした食育推進事業」の指定を受け、子どもたちの望ましい食習慣の形成と食の自立を目指して、学校・家庭・地域が連携しながら本事業を推進してまいりました。

取り組みの結果につきましては、報告にあるとおりですが、本町の子どもたちの食に対する意識や食生活については、実践中心校の小学校だけでなく、連携して取り組んできた幼稚園、中学校においても事業実施前より改善されていると感じております。そして栄養教諭の学校での役割がより明確になり、その職務の重要性を再認識するとともに、本町の食育を推進することができたと感じております。

次代を担う子どもたちが、これらの重要性と正しい知識を習得し、望ましい生活態度を身につけ、日々実践する力を育成することは、学校教育の中でも重要な柱となるものであると考えております。この度、本事業実践をきっかけに食育推進委員会の体制を整備することや PTA や町内各種団体とのネットワークを作ることもできました。今後もこのネットワークを大切に、本事業実践により明らかになった成果と課題をもとに、本町の子どもたちを中心とした食育を、学校・家庭・地域が連携しながら取り組んでまいりたいと考えております。

最後になりましたが、本町の取り組みに対しまして、熱心にご指導をいただきました岡山県立大学の川上貴代先生、久保田恵先生、岡山県教育庁保健体育課の皆様方に、厚くお礼を申し上げますとともに、今後ともより一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 26 年 2 月

早島町教育委員会

教育長 屋敷 欣一